

が農作業を通して自然の営み知る取り組みについて伺う。

答弁 農作業をする子供達は全ての感覚機能を使い実践的な学習方法を身につけ、生命の尊さと自然の偉大さ、勤労の尊さやたくましい心身を育てる農業の教育効果は高いものと考えます。

このまま10年もしたら農村農業は大変なことになるという話は同感である。市ではグリーンツーリズムを展開しており、この政策を進めることが農業や農村が再生に繋がると思う。

質問 新型インフルエンザの最新情報と対策について伺う。

農業所得の向上策は販売先と直結する取り組み



藤原 万正

質問 耕作放棄による荒廃田が年々増加

答弁 対策として1月5日より2回目の集団接種を行っており、最近の発生状況は減少傾向にある。

引き続き手洗い、うがい、マスクなど予防の徹底をお願いする。



新型インフルエンザの説明に聞き入る小学生（神代地区）

傾向にある。農林畜産の収益性を高める市独自の支援制度創設の基本姿勢について伺いたい。また、その中で耕作放棄地解消に向けての対策はどう考えているのか伺いたい。

答弁 水田フル活用という事で米粉用米

や飼料用米、野菜等の作付けによる生産額の拡大を図るための販売先と直結する組織作り、担い手による効率的な生産、生産資材の効率的な利用を通じて生産コスト低減を図ることが必要と思っております。

国と県の補助事業等を取り入れながら、機械化による多品目生産が可能となるよう、多様化のニーズに対応できる生産体制の確立と合わせて加工業の指導体制も考えていきたい。耕作放棄地解消に向けて、食糧自給率向上に向けて、土地所有者との調整を図りながら、解消活動に積極的

質問 市民がどんな思いをしているのか、何を求めているのか、いつでも市民の声を聞き、市民の幸福を絶えず追究し、よりよい社会へと現実を変革していく、これが市の一貫した姿勢でなければならぬ。そのためにも地域会議を立ち上げるべきと思うが。

答弁 協働のまちづくりを進める市民分権を目

指したマニフェストの中で、地域運営体の設置と行うことと考えている。市内9エリアで自治組織を作って、市民自らが主体者になる市民分権、市民サポーターの役割を担っていただきたいと考えている。

質問 県は今、第2次廃棄物処理計画を策定している。その計画に基づきゴミを出す側も環境保全を自らの問題と受け止め、発生の抑制への努力する意識の高揚を図るべきと思う。市側の取り組み姿勢について伺いたい。

答弁 ゴミの減量は市民の方々の意識が何よりも大切と考えている。実際に仙北市での総ゴミ量は減少傾向の状況で、市民の方々の御協力のお陰であり、環境に対する住民の意識付けがその後のゴミ減量化の大きなエネルギーになっていると思う。これまでのゴミ減量化のようにな取組みに加えて、地球温暖化防止対策の面からも更に啓蒙活動を進めてまいりたい。

協働のまちづくりを進める市民分権を目

質問 県では環境あきた県民塾を開催、受講修了者はエコマイスターとして登録、環境リーダーとして環境保全活動に活躍しているが、仙北市には3名しかない。当市でも環境リーダーの育成や環境に対する意識の高揚を図ってほしい。

答弁 県民塾を市で開催するには、県に登録している関係団体があれば可能だと伺っている。仙北市にはそうした団体がまだ無いので、開催するにはどうするか、もう少し研究させて

地域経済の基盤づくりは総合産業研究所を稼働する



安藤 武

質問 昔、地域は強力な指導者の下、集団の問題解決の方法が取られ、助け合う精神が生

いたいただきたい。



ゴミの減少傾向が続く西木地区の最終処分場

まれていた。

今、急激な社会変動時代に生きる市民は、生きる力の心の教育が課題であると言われている。

生涯学習の観点に立ち、多様な学習の機会を展開することが、市長の言う市民協働のまちづくりの原点と思うが、どうお考えか伺います。